

## レッスン09 ローソク足の見方②～1本のローソク足

特徴的な線には名称がついているものもあります。














一般的なローソク足の解釈は図表 20、図表 21のとおりですが、基本的な見方は次のようなものです。

- ① 陰陽の別。
- ② 勢いの強弱。長短で示されます。長いほど強いといえます。
- ③ 時間的推移。実体とかげのバランスを見ます。これによって②の信頼度を判断することができます。上かげと下かげは重要で、下かげは強気で上かげは弱気と考えるのが一般的です。

図表 20 ローソク足の基本線①（日足・実体の大きいもの）

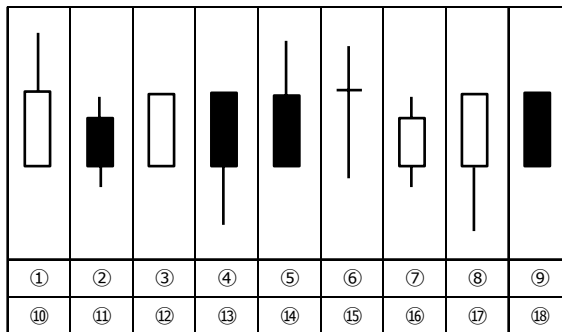
線の形	陽陰の区別	呼称	線の性質
	下かげ陽線		強い線
	下かげ陰線		強い線
	上かげ陽線		弱い線
	上かげ陰線		弱い線
	小陽線		弱保合
	小陰線		強保合
	大陽線		極めて強い線
	大陰線		極めて弱い線
	大陰線	陰の寄付坊主	底値で出た場合は反騰しやすい。
	大陰線	陰の大引坊主	落勢が強い。下値には支持がある。
	大陰線	陰の丸坊主	落勢が強い。上値には抵抗がある。
	大陽線	陽の寄付坊主	上位で出た場合は方向転換しやすい。
	大陽線	陽の大引坊主	落勢が強い。
	大陽線	陽の丸坊主	騰勢が強い。上値には抵抗がある。
	大陽線	陽の大引坊主	騰勢が強い。下値には支持がある。
	大陽線	陽の丸坊主	下位で出た場合は反騰しやすい。
	大陽線	陽の丸坊主	騰勢が強い。

図表 2 1 ローソク足の基本線② (日足・実体の小さいもの)

線の形													
陽陰の区別	上かげ陽線	上かげ陰線	下かげ陽線	下かげ陰線	寄引同事線	寄引同事線	寄引同事線	寄引同事線	寄引同事線	小陽線	小陰線	寄引同事線	寄引同事線
呼称	塔婆	塔婆	たくり線 トンカチ・唐傘・	たくり線 トンカチ・唐傘・	塔婆	トンボ	寄せ線 足長同事・	トンボ	トンボ	陽の極線 コマ・	陰の極線 コマ・	十字	四値同事
線の性質	ば買い。 上位に出れば売り、下位に出れば買い。	ば買い。 上位に出れば売り、下位に出れば買い。	ば買い。 上位に出れば売り、下位に出れば買い。	ば買い。 上位に出れば売り、下位に出れば買い。	転換期	転換期	転換期 売り勢力と買い勢力の均衡を示す。転換暗示。	転換期	転換期	迷っている	迷っている	転換暗示	前後の線によっては転換線

レッスン 09

練習問題



(1) 上表の①～⑨を下の語群から選んでください。

ア. 陽の大引坊主	イ. 陽の極線 (コマ)	ウ. 寄引同事線 (トンボ)
エ. 陰の寄付坊主	オ. 陽の丸坊主	カ. 陰の丸坊主
キ. 陽の寄付坊主	ク. 陰の大引坊主	ケ. 陰の極線 (コマ)

(2) 上表の⑩～⑱を以下の説明文から選んでください。

- a. 騰勢が強い。底値で出た場合は方向転換しやすい。
- b. 迷っている。
- c. 落勢が強い。上値には抵抗がある。
- d. 転換期に出ることが多い。
- e. 落勢は強いものの下値には支持がある。底値で出た場合は反騰しやすい。
- f. 騰勢が強い。下値には抵抗がある。
- g. 騰勢は強いものの上値には抵抗がある。天井圏で出た場合は下落しやすい。
- h. 落勢が強い。天井圏で出た場合は方向転換しやすい。



コーヒーブレイク

#### テクニカル分析の歴史④



1960年代には、2本の移動平均線のかい離に注目した、狭義のオシレーターが紹介され、数値計算によるモダンなテクニカル分析が盛んとなりました。

その最高峰を極めたのがJ.W.ワイルダーです。彼が作った、あるいは整理した技法をまとめた『テクニカル・トレーディング・システムの新しい概念 (New Concepts In Technical Trading Systems)』が出版されたのは1978年ですが、これによって、テクニカル分析が一気に洗練されたものになったのです。彼がいなければ、現在のテクニカル分析の隆盛はなかったのではないかとすら思われます。

その後、電卓やパソコンの発達とともに急速に数値計算によるテクニカル分析が発達します。例えば、J.F.イーラーなどがタイム・サイクルから考えたテクニカル分析技法の最適化の研究を盛んに行いました。しかし、最近は最適化の考え方は少し廃れつつあるようです。ラリー・ウィリアムズは、チャート上の動きを分類しコンピュータで解析するという、確率の世界にテクニカル分析を当てはめるという野心的な研究を行いました。

何やら、テクニカル分析の歴史というより、米国のテクニカル分析の歴史といった趣になってしまいました。日本での動きの詳細については日本テクニカル・アナリスト協会編著『日本野線史』の一読を薦めます。

(『はじめてのテクニカル分析』より)

